

柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校校内
 電話:070-1503-6401,044-988-0004
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>
 第97号

秀吉の天下統一間近 その時[麻生]で起きた事は(2)

===NHK 大河ドラマ「真田丸」の時代と麻生～麻生小島家に伝わる秀吉からの朱印状は語る===

1589年の北条氏(後北条氏。鎌倉時代の北条とは異なる)による名胡桃(なぐるみ)城奪取は、沼田領を取り戻そうという真田昌幸による巧妙な策略であったのかもしれませんが、或いは全国平定を急ぐ秀吉による巧妙な罠であったのかもしれませんが、いずれにしろ、戦国大名の、あの手この手の調略合戦は凄まじかったようです。結果的にいえば、北条氏の名胡桃城奪取は関白秀吉が発令した戦国大名間の戦闘を禁止した「総無事令」違反であり、秀吉にとって北条氏攻略の大義名分がととのった絶好のチャンスともなりました。これは北条氏が、時代の趨勢を十分把握していなかったからとも考えられる出来事でした。

1590年(天正18年)4月、この事件がきっかけとなり秀吉の小田原征伐が始まりました。真田昌幸のもとにも、秀吉からの命令が届き、昌幸は信幸・信繁(幸村)とともに加賀の前田利家・越後の上杉景勝らの軍勢と合流し、上野(こうづけ=現在の群馬県)に攻め込みました。松井田城・厩橋(うまやばし)城(現在の群馬県前橋市)・倉賀野城等北条方の城を立て続けに攻め落としました。さらに武蔵に南下し、現在の埼玉県の大鉢形城・松山城・川越城さらに現在の東京都の八王子城も落とし小田原に到着します。さらに石田三成と合流し、忍城(おしじょう=現在の埼玉県行田市)攻略中の7月に北条氏直が秀吉に投降し、北条氏は滅亡することになります。

さて、この小田原征伐は麻生にどのような影響を与えたのでしょうか。秀吉は同年4月に麻生郷の王禅寺村・片平之郷・万福寺村・古沢村・黒金(鉄)之郷・石川之郷・三輪之郷・荏田之郷・大榎之郷の九ヶ所に宛てた禁制(きんぜい=右写真)を出しています。これは上麻生の小島家が所蔵しているものです。この禁制は、秀吉が戦いの始まる前に、関係する郷村の有力者に与えたものです。秀吉は小田原攻めにあたり、「兵士には、住民に乱暴・狼藉・不当な言いがかりや命令・放火等をするを厳禁しているので、同様なことが行われたら秀吉が厳罰に処する」という内容で、住民に安全を約束したお墨付きとして地域の有力者に与えたようです。ならばここでいう麻生郷における有力者とは果たして誰であったのでしょうか。この禁制には宛先は明記されていません。



1559年頃作成の「小田原衆所領役帳」を見ますと、麻生は北条氏の支配下にあり、北条氏の家臣、布施蔵人佑(ふせくらんどのおすけ)が八十二貫五百文の知行(与えられていた土地)で治めていたようです。布施氏は北条の家臣ですから禁制は布施氏の手には渡るはずはありません。たぶん、現在所有している小島家の先祖が受領したものと思われます。小島家は麻生区周辺を実支配していた国衆(くにしゅう=中世、各地域に根を下ろしていた土着性の強い在地領主)であったのではないかと思います。なお、この禁制からは色々な事が分かってきます。当時の関東地方の支配者北条氏と在地有力者である小島家との関係。また、秀吉がこの禁制を麻生の有力者に渡すことにより、北条氏滅亡後の支配を容易にできる事を考えていたのではないかと思います。

また、麻生区の尾作家文書によると真福寺の白山谷戸に陣屋があり、小田原城落城の時、このあたりでも戦が行われました。生き残った北条家臣の吉垣三十郎は密かに王禅寺口の神明神社前(王禅寺東5丁目)に居を構え百姓となり、江戸時代になって名主として王禅寺一帯を治めました。今でもこの周辺では吉垣姓の家が多く見られます。

このように、真田氏の動きが関係して、秀吉が動き、小田原征伐が行われ、やがて天下統一が実現します。そんな大きな歴史の流れが川崎市麻生区にも押し寄せ、やがて江戸時代という新しい時代を迎える事になるわけです。
 (参考資料:「小田原衆所領役帳」「川崎市史」「ふるさとを語る」) (文:板倉敏郎)

柿生郷土史料館友の会へのお誘い

柿生郷土史料館では友の会への入会を常時受け付けております。手作り史料館に参画しませんか。会員には「柿生文化」の送付や各種イベントへの優先受付などの特典を用意しております。ぜひ入会をご検討ください。
 詳細は直接当館にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

シリーズ

「麻生の歴史を探る」 第67話

小沢城 (4)

小島 一也 (遺稿)

大永六年(1526)扇谷上杉勢による小沢城の奪取は上杉朝興方を勢いづけ、江戸周辺の北条氏勢力を破って武蔵府中に軍を進めます。しかし一方、相模、南武蔵の一部を掌中に収めた北条氏綱は、享禄三年(1530)弱冠16歳の氏康を多摩川河原に派遣、朝興軍を多摩川に近い小沢ヶ原に迎え撃たせます。これが名高い“小沢ヶ原の合戦”で、この戦は小沢城から菅、稲城、細山、金程、平尾など広範囲に及んだようです。

新編武蔵風土記稿では金程の項に「今その所を伝えざれど、この小沢郷の内多摩川辺へ寄りたる広き原野なるべし…(略)…享禄三年の夏、上杉修理太夫朝興河越の城に在りて、先年江戸城に在りし頃、北条氏綱に敗れし恥辱を雪がんと…(略)…兵五百騎にて武州府中に出陣す、氏綱聞きて何ほどのことかあらんと、子息新九郎氏康其頃まだ十六歳なりしをさしむける…(略)…両軍鋒先を交え終日おのめき、さけんで戦いしが、夜に入りければ上杉散々にかけ負けて引退し、氏康は初陣に敵を落として物始めよしと悦び勝鬨をあげ馬を入りしと云う…」と記され、この戦には万福寺の中島隼人佐、片平の大熊修理亮など、この地の地侍が北条方に組したと言われ、勝鬨をあげた勝坂、戦場だった矢崎、陣川、軍勢を置いた膳部谷戸、隠れ谷戸の伝承が今に残っています。

だが、敗れた上杉朝興勢はまだまだ執拗で、北条方が江戸城を関東制覇の拠点としてからも奪還の戦が度々あり、小沢城でもその余波を受けての戦があったかと思われます。しかし天文六年(1537)上杉朝興が死に、天文十五年(1546)北条氏康は上杉家の本拠河越城を河越の夜討ちとも言われる合戦で上杉朝定等を敗死させ扇谷上杉は滅亡。山内上杉憲政は上野国へ敗走、両上杉家と北条家の戦には終止符が打たれ、以降、戦国大名となった北条氏には永禄三年(1562)上杉憲政を擁した長尾景春(上杉謙信)の関東侵攻、元亀元年(1574)武田晴信の小田原城攻めなどの戦があったものの、小沢城の如き城壘は忘れ去られ、元の山塊に戻っていきます。

この小沢城歴代の城主が初代を除き誰であったかは分かりません。それは、その戦ごとに人を変えていたからなのでしょう。多摩川に突出して天然の地形を持ったことから、戦国動乱の中で多くの武士たちの野心に利用され、翻弄されたこの城の幾多の戦の変遷は、この地方の戦国時代の歴史を物語ってくれます。

今、この小沢城址を訪れてみると、新緑の中を寿福寺から浅間塚～小沢峰～浅間山、稲城の穴沢天神社に抜ける空堀もあり格好のハイキングコースですが、市小沢城跡調査収録書によると、「支尾根を削平し、広い平場が次から次へと連続しており、掘割を作り、切岸を作り、土塁を築き、大堀をもって城内外を区切るといったやり方は、邸館を中心とする中世後半期城郭にみられるもの」と述べています。

成程、訪れてみると邸館と覚しき跡地、井戸もあり、その館の主が誰であったのがこの城壘の特徴で、前述の通り、戦のごとこの館の主は変わり、偉い戦国の世の武将の夢の跡を偲ばせています。

それにしても、この城を持った小沢郷、菅や矢野口の村々は幾度となく続く戦火によく耐えたものと思います。新編武蔵風土記稿によると菅村の項に、百姓定右衛門の欄があり「先祖佐保田山城守平政春は当所の領主なり」と述べ、当村に七党あり、広田、安藤、上原、田郷、関谷、小山、佐保田としていますので、これら氏族の祖先の苦勞があったのではないのでしょうか。



小沢城址＝ハイキング道



小沢城址＝天神坂空堀



小沢城址＝中心域

参考文献:「川崎市史」「新編武蔵風土記稿」「菅町会六十年記念誌」(写真は編集者挿入)

シリーズ

時間と時計の話 第2部

時計と時間の観念(3)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆経度の測定◆

1700年前後といえば、日本では元禄時代の後半です。有名な赤穂浪士の討ち入りは、西暦で記せば1703年の1月の事ですから、小人国に滞在したガリバーが帰国の途についた2年後のことなのです。ヨーロッパ世界がスペインとポルトガルを先頭に、大航海時代に入ってからおよそ200年、世界にはまだまだ未知の大陸や島々が沢山残されていた時代です。こんな時代に不正確な地図や海図を頼りに航海することは、とても危険に満ちたものでした。ですから、ガリバーやこれら皆さんご存知のロビンソン・クルーソーが出会ったような海難事故は、当時としては日常的に起こりうることだったのです。それは商船ばかりでなく、各国の艦隊でも同じでした。

西洋史ではお馴染みのスペイン継承戦争(1701年～1714年)は、当時飛ぶ鳥落とす勢いで隆盛を誇ったルイ14世のフランスが、スペインをも支配するようになっては大変だと、他のヨーロッパ諸国が連合してフランスに挑んだ戦争だったのですが、この戦争の最中の1707年に事件は起きました。地中海での海戦を終え、ジブラルタルを通過して帰国途上にあつたイギリス地中海艦隊が、英仏海峡を通過中の11月22日、西からの強風に煽られて進路を誤って座礁、艦船4艘を失って、2千人に及び乗組員が死亡するという大惨事を起こしたのです。



17世紀に無敵艦隊と称されたスペイン艦隊

事故はイギリスのみでなく、ライバルのフランスやオランダにも、強いショックを呼び起こしました。いつ自国の艦隊が同じような事故に会うかもしれないからです。経度の測定が出来ないがゆえに事故は起きた。正確な経度の測定が出来ていれば事故は防げたに違いない。こう考えた各国の関係者達は、競うように経度の測定法の開発に熱中したのです。

1714年、イギリス政府は、正確な経度測定法を考案した者に、2万ポンドの賞金を出すと発表しました。フランス政府は翌1715年、1万リーブルの報奨金を出すと発表、同年オランダ政府も1万ギルダーの賞金を出すことを決定したのです。早くに経度の測定法を入手した国が、世界の海を支配できる。当時の海洋国家は、競って経度の測定法を入手することを目指したのです。

理論的には経度の測定法の見当はついていました。標準経線を設定して、その線と船が位置する地点の時間との時差から、割り出すことが出来るからです。問題は、そうした時差を測るための、誤差の少ない正確な時計がないことでした。また、仮にそうした時計が開発できたとしても、揺れの激しい船の上でも、正確に時を刻んでくれるかという問題もありました。誤差が僅かであったとしても、それは地図の上では大きな差につながるからです。こうしてまずは時報の外に、15分単位で時を打つ時計が開発され、さらに掛け時計でも、置き時計でもない、人が身につけることが可能な懐中時計が開発されたのです。

ガリバーが服のポケットに、大切に懐中時計をしまっていたわけは、船の進んだ距離を測るためでした。それは、やや正確さに欠けるとしても、経度を測るためでした。コロンブス一行が、大型の砂時計を積み込んでいたのも、未知の海を進むために、出来るだけ正確に自分たちの船の位置を知るためだったのです。やがて18世紀後半に、より正確に経度を測る道具として、マリン・クロノメーターが開発されると、懐中時計は海上での役割を終えるのですが、その頃イギリスでは産業革命が始まり、やがて時計は、時を知るための物として、なくてはならぬ物になって行くのです。



マリン・クロノメーター

◆19世紀と時間の約束◆

もう一度シンデレラの話に戻ります。2か月前の95号に記した通り、シンデレラの物語は1697年に出版された『ペロウ童話集』に採収された物語です。この物語では、魔法使いとシンデレラの交わした時間の約束が、物語の進行上大きなポイントになっています。さて、17世紀末に出版されたシンデレラの物語は、発売からしばらくすると、一度忘れられてしまうのですが、19世紀の前半に再発見されて一大ブームを巻き起こし、大変な人気を博したことが知られています。それは時間の約束が、社会的な関心事になってきたからに外なりません。産業革命の進展に寄って、工場制度が普及期に入り、資本家に雇われた労働者たちは、決められた時間に工場に入り、決められた時間まで働くことが義務付けられたのです。時間の約束は、資本家と労働者の契約の根幹をなしていたのです。(続)

第4回史跡バスハイク「小江戸川越を訪ねて」

快晴に恵まれ、好評裏に終了

4月20日(水)、35名の参加者を得て、無事終了いたしました。

最初の見学地、川越市立博物館では、館員の方が丁寧に、川越の歴史と蔵屋敷について説明して下さいました。その知識を基に博物館をじっくり見学の後、川越城本丸御殿、蔵造り資料館と回り、その後は昼食まで各自自由散策として、蔵造りの町並み、菓子屋横丁、大正浪漫夢通りをぶらつきました。

昼食後は、家康・秀忠・家光の3代の将軍に仕えた天海僧上の喜多院や仙波東照宮、そして川越の舟運を支えた新河岸川の源流に位置する伊佐沼や、川越市内に最も近い船着き場として、明治初期に開削された仙波河岸公園などを見学。ゆったりとした快適なバスハイクとなりました。



蔵造り資料館の見学

柿生郷土史料館催物案内 【入場無料】

◎開館日:偶数月は毎土曜日、奇数月は毎日曜日 (原則として月4回)

6月 4・11・18・25日(毎土曜日) **7月** 3・10・17・24日(毎日曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時 (7月31日は休館です)

第62回
カルチャーセミナー

「多摩丘陵に残る義経史話」

鎌倉に住んだと思われる義経ですが、鎌倉には何一つ史話は残っておりません。

何故、この地にはこれだけ残っているのでしょうか？

皆さんと共に説き明かしてまいりましょう。

講師: 松本 良樹氏 (麻生歴史観光ガイドの会名誉会長)

日時: 6月26日(土) 13:30～ 会場: 柿生郷土史料館特別展示室

第10回 特別企画展

新聞で見る近代日本の歩み展(3)

～ 関東大震災と横浜・川崎 ～

大正12年の関東大震災から93年を経て、震災の生の記憶が薄れてきました。そこで、当時の新聞報道から、被害の程度や対応を含めて、震災の様子を再現します。

期間: 2月27日 ～ 6月25日(期間延長) 会場: 柿生郷土史料館特別展示室

ミュージアム
トーク

関東大震災と神奈川・横浜・川崎・柿生

6月11日(土) 13時30分～ 講師: 当館専門委員 小林基男

サマースクール

瓦板作りに挑戦しよう ～木版画でイラストを作ろう

日時 平成28年7月24日(日)または8月6日(日)午後1時から約3時間

柿生中学校 金工・木工室にて

指導 王禅寺在住の版画作家 浅野新一氏とお仲間の皆様

対象 小学4年生から中学生で学校で彫刻刀を使ったことがあり、かつ彫刻刀を持参できる方

費用 調整中

詳細は次号でお知らせいたします。

ついに完成！

ふるさと柿生の記憶をDVD化

第1弾

「身近にあった信仰の世界と人々の思い」

◆◆◆晩秋の上麻生「秋葉講」を訪ねて◆◆◆

ご希望の方にはおわけしております。詳しくは史料館までお問い合わせください。